

1. 単元名 「豪雨災害に強い銀水校区にしようプロジェクト」

2. 単元の目標

- 自然災害によって起きる豪雨災害の状況や復旧への取り組みの様子などについての理解を図り、知りたい情報を集める技能を身につけることができる。 【知識・技能】
- 豪雨災害について調べたことをまとめ、豪雨災害に強い校区にするために、自分達ができることを考え、表現することができる。 【思考・判断・表現】
- 豪雨災害の状況や復旧への取り組みについて意欲的に調べ、主体的に問題解決しようとすることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】

3. 単元について

(1) 教材観

近年、梅雨の時期になると毎年のように日本のあちらこちらで豪雨災害のニュースが聞かれるようになった。2020年7月に大牟田市で起きた豪雨災害では、同じ市内の学校の校舎が冠水したり、家屋が浸水被害に遭ったりするなどの大変な被害状況だった。銀水校区でも冠水、山の手では土砂崩れの可能性があり、本年も豪雨による冠水での休校措置等を経験し、災害はいつ、どこにでも起こる可能性のある身近なものとなっている。そこで、この単元の学習を通して、2020年7月の豪雨災害についてもっと詳しく知ること、万が一、自分達の校区で同じような災害が起こった時に、より良い対策を取るために何か準備をしておくことはできないかということを考えさせるためにこの単元を設定した。このことで、児童自身が防災を学び、また同じことが起こった時にはどのように行動したらよいかを主体的に考え、今後の生活に生かせるようにしたい。また、万一、災害が起こった時には復旧・復興に向けてどのような取り組みを行うべきか、校区の街づくりの担い手としての自覚を持たせ、地域との協力の在り方も考えられるようにしたい。

(2) 児童観

本学級の児童は、台風が近づいた時には、ベランダにある物を自主的に教室に入れるなど、見通しを立てて行動できる児童が多い。また、梅雨の時期には、住んでいる地域が冠水したり、知人が被害に遭ったりしたという児童もいる。しかし、実際に大きな豪雨災害が起こってしまった時に、どのような行動を取るべきかやどのような準備をしておくかよいかということについて具体的に考えられる児童は少ないと考える。そこで、豪雨災害についてより自分事として考え、被害に遭った方への聞き取り調査などを通して復旧の取り組み等を調べる活動を通して、「自分達にできることはないか。」「豪雨災害に遭った時には、どのような準備をしておくかよいか。」ということを考える機会にしてほしい。

(3) 指導観

本単元の指導にあたっては、まず『課題の設定』の段階において、豪雨災害というものが、いつ自分の身に降りかかってもおかしくないものとして、捉えられるようにする。現時点で、豪雨災害について知っていることを出し合い、アンケートの結果での意識の低さと銀水校区の被害リスクとのずれから、

豪雨災害についての様子や備えておくべきことについて調べていくという課題をつかませる。次に、『情報の収集』の段階では、豪雨災害の状況や復旧作業についての情報を集め、実態を捉えられるようにする。その際、「どのような情報が必要か。」「どのような手段で収集するか。」などを考え、計画的に進められるようにする。情報収集の結果を『整理・分析』する段階では、ロイロノートのシンキングツールを活用して、集めた情報を種類ごとにまとめたり、因果関係でつなげたりして整理するようにする。最後に『まとめ・表現』の段階では、調べた情報やそれらをもとに考えたことについて、他者に伝えたり、表現したりする活動を行う。これまでに習得した、プレゼンテーションツールや動画編集などを活用し、相手意識や目的意識を明確にしてまとめさせるようにする。またこの表現活動を通して、新たな課題等にも気づかせ、大牟田市の未来を担っていく立場として、これからも考えながら行動していくことの大切さに気付かせたい。

(4) ESD との関連

○ 本学習で働かせる ESD の視点

- ・相互性…自分達のくらしは自然と密接な関係にあり、これを無視し続けていけば地球環境に大きな負荷をかけ、またそれが自然災害の増加にもつながること。
- ・連携性…地球規模で異常気象が起こっており、自然災害には公助・共助・自助の連携を取りながら、防災対策を進めていく必要があること。
- ・責任性…自然災害が頻発している背景には、地球温暖化による異常気象が原因であり、地球環境を守る行動を取っていくことが大切であること。

○ この学習を通して育てたい ESD の資質・能力

- ・多面的・総合的に考える力（システムズ・シンキング）

被災した時にできること、被災した方のためにできること、あるいは、自然災害を起りにくくするために地球環境保護のためにできること等について多面的・総合的に考える。

- ・他者と協力する態度（協同的問題解決能力）

大牟田市や銀水校区にとって役に立つ防災への取り組みについて、調べたことを生かして友達と協力しながらまとめることができる。

- ・つながりを尊重する態度

防災マップや避難経路の作成、エコ行動についてまとめ、発信していくことは、自分や周りの人達の防災意識の高まりにもつながり、これからも大牟田市で安心して暮らしていくための「つなぎ手」として、児童自らが主体的に活動することができる。

○ この学習を通して育てたい ESD の価値観

- ・世代内の公正…被災した人だけでなく、自分達も含めて、全ての人が被災する可能性があることを踏まえて、防災意識を高めておくことが大切である。
- ・自然環境や生態系保全を重視する…環境に配慮しない生活行動を続けると、これからも異常気象は起こり続ける可能性がある。
- ・幸福感を大切にする…防災に備えた暮らしを実現することで、安心して暮らすことができる。

○ 達成が期待される SDGs

- 11 安心して住み続けられるまちづくり
- 14 海の生態系の保護に対する関心の高まり



4. 単元の評価規準

| ア 知識・技能 | イ 思考力・判断力・表現力 | ウ 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| ① 豪雨災害の状況や復旧、防災の取り組みについて調べ、観点ごとに大事なことを整理している。 | ① 豪雨災害の状況や復旧、防災の取り組みについて情報を集め、整理・分析したことを工夫してまとめている。 ② 豪雨災害に強い銀水校区にするために、自分達ができることを考えている。 | ① 豪雨災害の状況や復旧、防災の取り組みについて、進んで調べようとしている。 ② 自分達にできることや伝える方法を進んで考え、主体的に問題解決しようとしている。 |

5. 単元の指導計画

| 次 | 主な学習活動 | 学習への支援（・） | 評価（△） |
|--------------------------------------|---|--|----------------|
| 1 | <p>○ 2020年7月に起きた大牟田の豪雨災害について振り返ろう。①</p> <ul style="list-style-type: none"> 豪雨災害について知っていることを出し合う。 写真や動画で当時の被害状況の様子を知る。 被災したみなと小の児童や先生の経験談を聞く。 事前アンケートの結果からわかる「防災意識の低さ」と「災害リスク」とのずれを意識する。 | <ul style="list-style-type: none"> 当時のニュース映像や写真を見せることで、被害の様子をより実感させるようにする。また、近隣の被災した同世代の児童の経験談を聞くことで、より児童が自分事として捉えられるような単元の導入にする。 事前に「豪雨災害に対する意識度」についてアンケート調査しておき、災害リスクと児童の意識とのずれを明らかにしておくことで、「防災への取り組み」への必要感を高めておく。 | △ウ① |
| これから起こるかもしれない豪雨災害に備えて、私達にできることを考えよう。 | | | |
| 2 | <p>2020年7月豪雨の被害状況はどんなものだったのだろうか。</p> <p>○ 大牟田市の被害状況について調べ、まとめよう。②③④</p> <ul style="list-style-type: none"> 調べる観点ごとにグループに分かれ、豪雨災害について詳しく調べる。 <p>【調べる観点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大牟田市の過去の豪雨被害状況。 みなと小学校の被害状況。 銀水校区の被害状況。 全国（九州）の豪雨災害。 | <ul style="list-style-type: none"> 調べる観点ごとにグループ分けすることで、豪雨災害について、より詳しく調べられるようにする。 市役所の方にインタビューし、市の取り組みについて話を聞き、より詳しく調べられるようにする。 調べたことについてシンキングツールを活用して、情報を整理できるようにする。 | △ア① △イ① |

| | | | | | |
|---|---|--|---|---|------------|
| 3 | <p>○ グループごとに調べた豪雨災害について発表し合う。⑤⑥</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれのグループで調べたことを発表する。 ・全国や大牟田市の豪雨災害の大まかな内容を捉える。 | <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれのグループが調べたことを視覚的に整理していくことで、調べたことを比較・分析しながら豪雨災害について捉えられるようにする。 また、大牟田市も含めて全国的に直面している豪雨災害への危機感を持たせるようにする。 | △イ① | | |
| 4 | <p>また豪雨災害が起きた時でも、安心して生活するために、今できることは何だろうか。</p> | | <p>○ また、大牟田市に豪雨災害が起きた時でも、安心して生活するために、今できることを考えよう。⑦⑧⑨⑩⑪</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害に備えて今、自分達にできることを考え、出し合う。 ・活動ごとにグループに分かれ、実施計画を立てる。 <p>【活動例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・銀水校区の防災マップ ・通学コースの避難経路や危険区域 ・避難行動フローチャート ・防災グッズの中身 ・学校で取り組むエコ活動 | <ul style="list-style-type: none"> ・予測できない「豪雨災害」に対して、どのような防災対策を取っておく必要があるか、「家」「学校」「登下校中」などの場面を設定し、具体的に考えさせるようにする。 ・1次や2次で聞いた市役所の方やみなと小学校の方の話を参考に、どのような取り組みが必要だったか思い出させる。 <p>※防災マップの作成は、市が発行している防災マップとの情報のずれがないように十分留意させる。</p> | △イ② △ウ② |
| 5 | <p>豪雨災害への備えについて、たくさんの人に知ってもらうには、どうすればよいだろうか。</p> | | <p>○ 豪雨災害への備えについて、たくさんの人に知らせよう。⑫⑬⑭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動してできた成果物をどのようにたくさんの人に知らせたらよいかの方法を考える。 ・活動ごとに、企画・運営を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・活動でできた成果物を自分達だけでなく、多くの人に知らせるためにはどうすればよいかを問う。 <p>【活動例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成果物を全校に配布。 ・各クラスに掲示の依頼。 ・広報動画（防災CM）をつくる。 ・公民館への掲示の依頼。等 ・企画・運営の助言を行う。 | △イ② △ウ② |
| 6 | <p>○ これまでの学習を振り返り、学習をまとめよう。⑮</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで自分達が行ってきた活動をもう一度振り返り、学んだことや感じたことを出し合う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習を振り返らせ、学習を通して自然災害に対する考え方が変化したことや人とのつながりの大切さに気づけたことなどを価値付け、学習をまとめる。 | △ウ② | | |

